

認可外保育施設（病院内保育所）における聞き取り調査報告

Hearing Invention in the Non-registered Childcare Facilities (Childcare Facilities in the Hospital)

早川 淳¹
HAYAKAWA Atsu¹

キーワード：認可外保育施設，事業所内保育施設，病院内保育所，待機児童，保育士，
聞き取り調査

Key Words: Non-Registered Childcare Facilities, Employer-provided Childcare Services,
Childcare Facilities in the Hospital, Waiting-list Child, Nursery Teacher,
Hearing Survey

1. はじめに

出産後も就労継続する女性が増加しているために待機児童の増加が問題になっている。「その待機児童数も低年齢児に集中しており，厚生労働省発表の2012年現在の待機児童数調査では，ゼロ歳児が3,170人，1～2歳児では1万7,037人で，合わせると全体の8割を超える」¹⁾。このような状況で待機児童解消法として，認可外保育施設への視点が向けられ始めた。本稿では，認可外保育施設のなかでも自社の勤務時間である休日・夜間にも対応した保育運営をおこなっている事業所内保育施設（病院内保育所）における実態，そこで働く保育士や利用者である保護者への意識調査とニーズ，保育方法について調査した結果を報告する。

2. 事業所内保育施設で働く保育士と保護者の意識調査

2-1 研究目的

認可外保育施設は，「認可を受けていないというだけで，認可外保育施設の保育環境を即劣悪と判断すべきではないが，保育条件が公的に保障されている認可保育所に比べて不安が残るのも確かである」²⁾。本調査では，事業所内保育施設は保育環境や保育条件など子どもに適した保育環境であるのか，また，保育所保育指針に沿った保育の提供ができているのか，という視点から，そこで働く保育士と，利用者である保護者の意識，事業所内保育施設の実態と保護者のニーズ，そして保育方法や保育環境の取り組みについて調査し，社会が求めている事業所内保育施設へのニーズと課題について検討する。

2-2 方法

本調査では，保育士の勤務実態と保育内容および，保護者の病院内保育に対する意識について，アンケート調査と聞き取り調査を行った。これは定量的データであるアンケート調査の調査対象者が少数であるため，聞き取り調査により質的側面から補強し，基礎資料とするためである。聞き取り調査は，保護者の視点に基づく表象を大事にするためにオートエスノグラフィ^{注1)}を用いて分析し，保育士と保護者に対し別個に行った。保育施設の保育内容については，病院内保育施設での保育士への聞き取り，入園児の保護者に，アンケート調査と聞き取り調査を行い検討した。対象施設は，H県T市にある病院内保育所で，研究協力の承諾が得られた1施設である。倫理的配慮としては，調査対象者のプライバシーを厳守すること，また得られたデータは研究目的以外に使用しないことを説明の上実施した。

¹ 樟蔭東短期大学 生活学科 保育専攻
Shoin-Higashi Junior College

調査時期：平成 24 年 5 月

対象：保育士：常勤保育士 5 名，非常勤保育士 5 名

入園児童：0 歳児 7 名，1 歳児 1 名，2 歳児 2 名，3 歳児 1 名，計 11 名

保護者：16 名（入園児の保護者 11 名と卒園児の保護者 5 名）

(1) 保育士への聞き取り調査

調査対象者の属性は，常勤保育士 5 名（年齢構成 50 代 1 名・40 代 2 名・30 代 1 名・20 代 1 名）と非常勤保育士 5 名（50 代 1 名・40 代 1 名・30 代 2 名・20 代 1 名）計 10 名であり，全員が女性である。保育経験は，常勤保育士（40 年 1 名，30 年 1 名，4 年 1 名，1 年 1 名，1 年未満 1 名）と非常勤職員（40 年 1 名・30 年 2 名・2 年 1 名・1 年 1 名）である。

調査内容は，次の 3 点である。

①保育基盤 (i) 労働環境，(ii) 雇用条件，(iii) 組織の位置づけ，(iv) 職務形態

②保育士間の関係性

③保育概要 (i) 保育内容，(ii) 保育日誌・日案

(2) 保護者へのアンケート調査と聞き取り調査（表 1）

調査対象者の属性は，全員が看護師で，年齢構成は 40 代 5 名，30 代 11 名である。

対象者が少数なため，アンケート調査と聞き取り調査をした。基礎資料の質的側面を補強するためである。アンケート調査は，3 件法（はい・いいえ・どちらでもない）で設問し記述を求めた。アンケート調査後の資料を基に，再度聞き取り調査した（付表 1）。なお，回答は類型回答内容を調査者がまとめた。

調査内容は，次の 4 点である。

①病院内保育室を利用されてよかったですか

②病院内保育室は必要だと思われませんか

③保育サービスに満足されていますか

④保育内容について満足されていますか

2-3 結果と考察

(1) 保育士への聞き取り調査の結果

①保育基盤 (i) 労働環境について，ワンフロアで保育をしているため，「休養する部屋がない」「プライバシーがない」などの意見があった。保育士は子どもの命を預かり，子どもの人格形成に影響を及ぼす重要な職種であり，情緒の安定を必要とするので，各自休養できる部屋は必要であると考えた。

(ii) 雇用条件における給与面では，非常勤保育士は給与が低く，「良い条件があれば転職したいと思っている」と考える保育士が多いことがわかった。これにより非常勤保育士の離職率が高くなる可能性がある。保育環境（保育士を含む）に慣れるのに時間がかかる子どももあり，とりわけ 3 歳児未満の子どもにとって，安定した保育者集団を作り保育環境を整えることが重要であると考えた。(iii) 組織の位置づけは，主に病院内関係者が利用し付属施設としての扱いであり，(iv) 職務形態は休日・夜勤があり，看護部と調整していかなければならないことがわかった。

②保育士間の関係性については，「子ども中心にお互いが気を遣いあって仕事をしている」などお互いに周囲と調節しながら仕事をしている様子が伺えた。

③保育概要の (i) 保育内容では，保育内容を検討するために 1 週間に 1 度，研究会や研修会を開催しており，「皆で協議しあって保育内容を決めたので質の良い保育が提供できていると思う」など，切磋琢磨しながら子ども達に質の良い保育が提供できるよう実践している様子が伺えた。また (ii) 保育日誌・日案では，「保育日誌・日案は良い記録を書けるように工夫している」「エピソード記録を書くことが苦手だが良い勉強になる」など記録を重要視しており，「他の保育士や子どもの様子がよく分かる」よう保護者や病院関係者に子どもの日々の様子や子どもの成長の記録を伝えるため，エピソードの記録することを保育者同士で取り組んでいる様子が伺えた。

これらの結果から，保育基盤での 2 点の課題が読み取れる。

表1 (2) 保護者へのアンケート及び聞き取り調査の結果

<p>①病院内保育室を利用されてよかったですか(16名中16名がよかったですと回答)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.近くに居るので安心 2.人数で目が行き届いている 3.子どもの様子を丁寧に知らせてくれる 4.子育ての相談に乗ってくれる 5.子どもの安全が守られていた 6.病院の保育室という環境のため衛生面が徹底されている,他の集団施設と違い他の子どもから病気をうつされた経験がない 7.卒園生が長期休暇や休みには来園を楽しみにしている
<p>②病院内保育室は必要だと思われませんか(16名中16名が必要だと回答)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.復職しやすい 2.待機児童対策のため必要である 3.身近に子どもを感じられ,子どもが何かあった時,すぐ駆けつけることが出来る 4.母親の精神的サポートの一助になっている 5.勤務上夜勤があるので,夜間保育があるため助かっている
<p>③保育サービス(保育時間・一時保育・夜間保育)に満足されていますか(16名中12名が満足していると回答)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.病児保育があれば助かる 2.発熱後2~3日,症状は余り変わりなくのんびりすごしている.その間仕事に就けない,軽症の場合は保育してくれると助かる 3.休日には親の休養のために保育して欲しい 4.2歳以下で認可保育所への要請があったので移行したが,なかなか馴染めず,3歳以降も保育して欲しい
<p>④保育内容について満足されていますか(16名中16名が満足していると回答)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.入所前は院内の小さな託児所ということで少し不安もあったがすぐに安心に変わり,お任せ状態です 2.認可保育施設と同じくらい良くしてもらっているので大満足です 3.園庭がないので心配していたのですが公園につれていってもらって公道を歩く時には交通マナーや交通ルールをしっかり教えてもらい,今は満足している 4.個別性を大切にもらっている 5.クッキングでは,家では小さいので無理と思っていたが,衛生面や手際など意外に出来るので驚いている

1点目は,子どもを保育するために建築されていない保育環境のため,限られたスペースであることや,そのために身体を使う遊びや運動面の保育内容が限られること,日によって登園する子どもの数や年齢に変化があるため,保育実践は臨機応変に対応しなければならないことである.2点目は,雇用条件として,非常勤の保育士に対する給与が低額であることにより保育士が長続きしない,そのために離職率が高くなることである.保育士は子どもにとって大切な保育環境の一つである.保育士の離職は,年齢の低い子どもにとって一番大事な情緒の安定が損なわれる恐れや落ち着いて生活できないことなどからつながるので,長期にわたって勤める保育士の確保が課題としてある.質の良い保育士の確保には,保育士が安心して働ける配慮が必要であり,このことは,子どもを預けている保護者にも影響する.

(2) 保護者へのアンケート及び聞き取り調査の結果

①②④の設問に対して,全員が(よかった,必要だ,満足している)と答えており,「病院内保育施設を利用して良かった」「病院内保育室は必要だ」「保育内容について満足して

いる」ことが分かる。また③「保育サービスに満足しているか」については、16名中の4名の保護者から、いいえの回答があった。内訳は、「病児保育があれば助かる」「軽症の場合は保育してくれると助かる」など病児保育2件、「休日には親の休養のため保育してほしい」1件、「2歳以下で認可保育所への要請があったので移行したが、なかなか馴染めず3歳児以降も保育して欲しい」などであったことが分かった。

③の結果から、「病児保育があれば助かる」と回答があるよう、病児保育が求められていることが分かる。施設母体が病院であるため既に専門の職員がそろっており、保育室の環境や看護師の配置などの課題はあるが、病院全体で考慮すべきであると考えられる。

また休暇時の保育所の利用は、制度的には時間外利用の届けを提出すれば利用可能になっているにも関わらず、「休日には親の休養のため保育してほしい」などの回答がある。制度の周知ができていないためなのかあるいは利用をためらう何らかの要因があるのかを探る必要がある。

さらに、「2歳以下で認可保育所への要請があったので移行したが、なかなか馴染めず3歳児以降も保育して欲しい」と回答があるが、この施設の入園対象者は小学校就学前までである。入園児のほとんどが3歳未満の認可保育園待機児童であるため、保護者は3歳児から認可保育所へ移行するものと考えている。保育士もそのつもりで保育しているので幼児期の入所はスムーズに行われている。ところが、院内保育所にやっと慣れてきたところなのに2歳以下で認可保育園から入所許可が出た、これをのがすとそれ以降の許可が下りないかもしれないと保護者も考え仕方なしに認可保育園に入所させたが、人や環境にすぐに適応できる子どもとそうでない子どもがおり、しかも、2歳以下の乳幼児にとっては、他の園に移るという環境の変化がストレスになる、また子どもによっては大きな集団に慣れるまでかなりの時間を要するなど、子どもの年齢と日々の様子を考慮して認可外保育所から認可保育所への移行をしなければならぬと考える。

④の結果から、「入所前は院内の小さな託児所ということで少し不安もあったが」という回答が見られるように、初めはこの施設入所の不安があり、託児所的な印象を持ちながらも勤務先の保育施設として仕方なしに入所していた保護者が16名中8名と半数あった、しかし、「すぐに安心に変わりお任せ状態です」「身近に子どもを感じられ、子どもが何かあった時、すぐ駆けつけることが出来る」「病院の保育室という環境のため衛生面が徹底されている」と保護者の満足度は高くなっていることが分かった。

3 保育方法や保育環境の取り組み

3-1 目的

子ども一人ひとりの発達や成長を考慮した保育目標を設定して、質の良い保育の提供ができるような実践と子どもの個性を引き出すことが出来るように意識することを中心におき、子どもの目線を重視した保育方法や保育環境の取り組みについて検討した。調査対象者の属性は、2-2(1)保育士への聞き取り調査と同様であり、対象施設も、H県T市にある病院内保育所で研究協力の承諾が得られた1施設である。倫理的配慮としては、調査対象者にプライバシーを厳守すること、また得られたデータは研究目的以外に使用しないことを説明した。

3-2 研究方法

「良い保育の提供」には、(1)子どもへの取り組み、(2)保護者への取り組み、(3)保育士への取り組み、(4)システムへの取り組み、(5)地域への取り組みが必要であると考え、(1)～(5)に着眼した子ども中心に保育実践を再考することを目標に定めた。そして、2年間の日々の保育実践記録と研修会(月1回)の記録から保育への取り組みを分析した

研究期間：平成22年4月から24年3月まで

対象：入園児童：0歳児5名、1歳児2名、2歳児3名、計10名(平成22年4月現在)

調査内容：保育の取り組みについて、次の5点から検討する(表2)。

表2 保育への取り組みについて

	取り組み	着眼点	方法
(1)	子どもへの取り組み	保育環境を整える	保育室・衛生面・安全面の見直し
(2)	保護者への取り組み	子どもの今を知らせる	ルーム通信・病院の壁面の利用・送迎時・保育内容の検討 (行事予定・参加者のあり方)
(3)	保育者への取り組み	専門性を高める	記録方法の見直し (反省・察欄・家庭との連携欄, エピソード欄に記入)
(4)	システムとの取り組み	他の職種と連絡を密にしていく	行事ごとに参入する
(5)	地域への取り組み	草花を育てる・果実を植える	地域の人達と協力

(1) 子どもへの取り組み, (2) 保護者への取り組み, (3) 保育士への取り組み, (4) システムへの取り組み, (5) 地域への取り組み

3-3 結果と考察

(1) 子どもへの取り組み

保育園は安心と安定した環境の中で、生きる力の基礎をつくる大切な時期を過ごす場である。そのため子どもの目線を中心に、子ども一人ひとりの発達やペースの違いを考慮した保育環境に整備するために、ワンフロアの部屋を2歳までの子どものスペースとそれ以降の子どものスペースに仕切った。乳幼児の発達から判断すると、まだ、自己中心的なところもあり、遊びを邪魔されたりすると手が出たりすることがあるため、子どもの目線と発達を考慮して、子ども中心の保育環境に整備した。その結果、一人ひとりの子ども達が自由に生き生きと個性を発揮して、保育園での生活を送るようになった。

(2) 保護者への取り組み

2011年の児童福祉法改正により、保育指針に保護者への保育に対する指導が追加された。それは、保護者を保護者としてのエンパワメントを高めていく場として捉えてもらうために、保育実践を発信していくことを重視している。保護者が、保育園での子どもの生活実態を知らないことや見ていないことが多々あるので、保育園での生活を知らせることを目標に定めた。調査対象の保育施設では、毎月1回のルーム通信送付、病院の壁面(写真を貼り、コメントを付ける)の利用のほか、送迎時に一人ひとりの保護者に子どもの生活の内容を詳しく丁寧に伝えること、保護者の行事への参加を目標としている。ルーム通信では、日々の保育生活や発達の様子などを書き加えた。また、子どもの送迎時に保護者の居場所づくりになるように、送迎時に、子どものその日の様子を丁寧に話し、育児相談などにも応じるようにしたことで、保護者との信頼関係ができるようになった。行事への参加は、祖父母中心から保護者中心になる取り組みを実施した。案内状やプログラムを早い時期に保護者や関係者に配布することにより、参加できるように、また行事に期待をもたせるようにした。その結果、保護者が全員参加するようになった。

(3) 保育者への取り組み

子どもと過ごす中での子どもへの気づきや発見を有効なものとするため、保育日誌に新たな欄を設け、エピソード記録を書くようにした。奥山はエピソード記録には、「①保育者当事者による間主観的な課題の自覚化、②保育課題の共有化の過程を含む研究としての意味、③遊びの中での瞬時の判断の質的向上」³⁾ という意義があると述べ、林は、「保育者がその日の実践を振り返り書き残したことは8つのグループに分類でき」「保育者は子ども、保育者、職員、保護者との関係性を重視している」「グループ感の意味の連関からは、子どもの育ちへの願を持った保育者が子どもたちと出会い、子どもの行為の意味を考え、次の関わりを展開する。保育者と子どもとの関わりの積み重ねの中に「過程の質」が見いだされる」とし、エピソード記録やそれらの子どもの記録を保育者間で共有することで、それ

らが日々の保育の質に関係していくことを述べている。本調査においても、記録方法を見直すことで、他の保育士の思いや休日時の子どもの様子がよくわかり、非常勤の保育士とも共有することができて、共通の問題意識をもつことができるようになったことがわかった。また、子どもの気になる行動についても、保育者同士で共通課題として取り組むことができるようになった。

(4) システムとの取り組み

保育室が他の部署との関係を改善するために、月1回のクッキングの実践を通じて、保護者が関係機関に子どもが作ったお菓子を子ども自身が持参するようにした。小さな子ども達がお菓子を手渡してくれるため、他の部署との関係性もよくなった。さらに、トラブルが絶えなかった給食室とは、子ども一人ひとりの除去食品のカルテを作成して話し合いの場を設け、問題点をお互いに確認し合い、理解を深めていくようにした。その結果、トラブルが発生しないようになった。

(5) 地域との取り組み

園庭や遊具がないため近くの公園を利用している。公園には歩いて行っているの、会う人に挨拶をすることを目標にした挨拶運動に取り組んだ。また、地域の老人会の人達に草花や果物の栽培を手伝ってもらい、老人会の人達にも生きがいの一つとしてもらっている。また、子ども達を院内の庭で遊ばせることで、患者も子ども達の遊ぶ姿を見ることで癒されていることから、院内の庭遊びも積極的に行っている。このように、挨拶運動により地域とのコミュニケーションをとることができ、また老人会の人や院内患者との交流など、保育を通じて地域との交流ができるようになった。

3. まとめ

本稿では、認可外保育施設として1ヶ所院の院内保育施設の実態を把握して乳幼児に適した施設であるかどうかを検討した。1ヶ所のみ調査であるため、今後継続した調査が必要という課題が残る。本調査の結果、病児保育の実践や認可外保育所から認可保育所への移行などの課題があるものの、事業所内保育園は待機児童の受け皿として、3歳児までの子どもには適していること、事業所内の保育所においても、子ども一人ひとりの発達や成長を考慮した保育目標を設定して、子どもの目線を重視した保育方法や保育環境に取組むことが質の良い保育を行うためには必要であることがわかった。

本稿の2と3は国際幼児教育学会33回、34回大会で発表したものである。東宝塚さとう病院の保育施設の責任者である北尾稔子さんに、研究を協力していただき感謝申し上げます。

注釈

注1) 民族誌。特定の民族集団の、生きている世界についての記述。典型的には、物質文化、生業活動、生態環境、社会組織、親族体系、伝承、宗教など、ときには言語や歴史も含まれる。

引用・参考文献

- 1) 全国保育者団体連絡会/保育研究所編：保育白書2013年版，p.63（2013）
- 2) 全国保育者団体連絡会/保育研究所編：保育白書2013年版，p.71（2013）
- 3) 奥山順子，佐藤敬子：「保育の質的向上を目指す保育実践研究の方向：保育者によるエピソード記録を中心とした園内研修の試み」、『秋田大学教育文化学部教育実践研究紀要』，28，p.134（2006）
- 4) 林悠子：「保育実践における「過程の質」：保育記録の分析から」、『佛教大学社会福祉学部論集』，7，pp.78(2011)
- 5) 日本国語大辞典，Japan Knowledge：「エスノグラフィー」，<http://www.jkn21.com/>（2014-2/3）

付表1 保護者へのアンケート調査用紙

保護者アンケート

このアンケートは、院内保育所における保育の質をたかめるために行います。お名前や回答の結果が漏れることや不利益が生じることは一切ありません。アンケートの記入にご協力くださるようお願いいたします。

1、院内保育室を利用されてよかったですか。

(①はい ②いいえ ③どちらともいえない)

そのようにお答えになった理由をお聞かせ下さい

2、院内保育室は必要だとおもわれますか。

(①はい ②いいえ ③どちらともいえない)

そのようにお答えになった理由をお聞かせ下さい

3、保育サービス（保育時間・一時保育・夜間保育）に満足されていますか。

(①はい ②いいえ ③どちらともいえない)

そのようにお答えになった理由をお聞かせ下さい

4、保育内容（行事・クッキング・通信）について満足されていますか

(①はい ②いいえ ③どちらともいえない)

そのようにお答えになった理由をお聞かせ下さい